

編集・発行：滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当（はしかけ担当職員：中川・松岡）

住所：〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話：077-568-4811 ファックス：077-568-4850

電子メール：hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ：https://www.biwahaku.jp

～ 目次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
 (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) 湖(こ)をつなぐ会 (10) ザ! ディスカバはしかけ
 (11) 里山の会 (12) 植物観察の会 (13) たんさいぼうの会 (14) 田んぼの生きもの調査グループ
 (15) タンポポ調査はしかけ (16) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
 (18) びわたん (19) ほねほねくらぶ (20) 緑のくすり箱 (21) 虫架け (22) 森人 (23) 琵琶湖梁山泊
 (24) サロン de 湖流 (25) 水と暮らし研究会 (26) 海浜植物守りたい

3. 生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数 … 372人

グループ数 26グループ

(2021年3月31日現在)

1. 事務局からのお知らせ

桜の便りが次々に聞かれるこの頃、会員の皆様にとっては、じっとしてられない季節なのではないでしょうか。

さて、3月には、はしかけ登録講座を初めてオンラインにて行いました。各グループ代表者の方々にはご協力をいただきありがとうございました。色々課題もありましたが、今後のはしかけ登録講座は、通常とオンラインを併せながら実施していくことを検討しています。

(1) 更新手続きについて

更新受付票を会員の皆様宛に2月末にお送りしております。年度末に更新手続きをお忘れで、2021年度も継続してはしかけ活動をされる方は、更新手続きが必要です。更新受付票の返送とボランティア活動保険への加入をお願い致します。

ボランティア活動保険の加入については、4月以降に加入される場合は、博物館での加入手続き代行はいたしておりませんので、個人での加入手続きをお願いします。お近く(市・町・県)の社会福祉協議会にて、「ボランティア保険」加入の申込用紙を記入し、加入手続きを行ってください。その際、「主な活動内容」欄には「琵琶湖博物館はしかけ 観察会・課外活動」、「主な活動場所」欄には「琵琶湖博物館」とご記入ください(はしかけ以外の活動団体ですすでにボランティア保険に加入されている方は新たな加入手続きは不要です)。

また、4月1日以降の更新手続きについては、手続き希望者が一定数まとまった段階で行いますので、更新受付票を送付頂いてから名札等をお送りするまで、1か月程度の期間が空くことがありますので、ご了承ください。

(2) 2021年度第1回はしかけ登録講座

はしかけ登録講座の第1回を2021年5月16日(日)に開催予定です。

場所：琵琶湖博物館 ホール 受付：13:00～ 開始：13:30～

各グループの代表の方には、可能な範囲で、活動紹介をお願いする予定です(約2分間の活動紹介)。

(3) はしかけグループの活動終了について

これまで20年以上にわたり活動を続けてこられた「湖(こ)をつなぐ会」が、2021年3月31日をもって活動を終了されました。本当にお疲れ様でした。

(中川 信次)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ代表アドレス : hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員 : 松田 征也

【活動報告】

■1月30日(日) オンライン運営会議 参加者:9名

うおの会運営会議をオンラインで開催しました。総会に向けて、今年度活動結果の整理、次年度の調査計画の検討を行いました。

■2月21日(日) 勉強会(中止)

昨今の情勢に配慮し、中止としました。

【活動予定】

■3月28日(日) 総会

今年度活動結果の報告、次年度計画の承認や、松田学芸員からのとっておきの講義を予定しています。

【その他】

はしかけ更新、うおの会会員更新をお忘れなくお願いします。



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス : hashi-junrei-rekishi@biwahaku.jp

グループ担当職員 : 橋本 道範・渡部 圭一

【活動報告】

新型コロナウイルスのさらなる感染拡大の影響で再び活動を休止しています。

【活動予定】

蓄積データの編集などの作業を中心にして今後の活動計画を見直す。

(福野憲二)

*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数 (のべ) 7名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 榎永 一宏

【活動報告】

■ 1月 24 日(日) 参加者:3名

オープンラボにて蝶や蛙の写生をしました。

■ 2月 21日(日) 参加者:4名

オープンラボにてグループ紹介のパワーポイントを作成。

○3月21日の活動については次号でご報告をします。

○2月から活動日を第三日曜日に変更、活動時間を 10 時～16 時 30 分としました。

○4月以降の屋外での活動場所については下記の通りです。

- 4月 赤野井町(守山市)
- 5月 仰木(大津市)
- 6月 醒ヶ井(米原市)
- 9月 花緑公園(野洲市)
- 10月 曾根沼(彦根市)
- 11月 坂本(大津市)

※1～3月、7月、8月、12月 は館内で植物や剥製などをスケッチします。

【活動予定】

4月 18日(日) 赤野井町(守山市) 10時30分現地集合。

5月 16日(日) 仰木(大津市) 10時30分現地集合。



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数 (のべ) 20名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部 圭一

【活動報告】

■ 1月30日(土) 参加者:8名

本日は人数が多かったため、和室の大掃除。押入れの中も整理し、すっきりしました。

■ 2月13日(土) 参加者:5名

工房のコンニャク芋をいただいて、コンニャクづくり。

■ 2月24日(水) 参加者:4名

いつもの作業。久しぶりに織ったので、経糸(たていと)が切れて、つなぐのが大変でした。

■ 3月10日(水) 参加者:3名

いつもの作業。機織りと糸紡ぎ。



機織り中の野良着

【活動予定】

■ 織姫の会

3月27日(土)、4月10日(土)、28日(水)、5月12日(水)、29日(土)

(辻川智代)



【活動報告】

■2020年1月の活動

○地学基礎の教科書をつかった勉強会(第3回) (参加者8名)

日時: 2021年1月23日(土)13:30~15:20

場所: 琵琶湖博物館 実習室1

発表: 中村さん(2名)

中村さん達による第3回目の勉強会を行った。報告は2名の息のあった丁寧な説明で、よく理解できた。今回もコロナ対策のため、網戸を使い外気も使用し活動した。

・報告のポイント

テーマは「火山活動と火成岩」の元、①プレートの運動、②世界の火山分布、③日本付近のプレートと火山の分布、④火山の活動、⑤火山噴出物、⑥火山の形・噴火の様式とマグマの性質、⑦火成岩、に関する説明があった。パワーポイントでの説明資料の作成、報告とも巧で、理解しやすかった。その後、中村さんらの調査地である織山や和田山で見つけた石の説明とそれに対する質疑応答があった。お二人とも資料の作成から説明まで着実にレベルアップしていた。

■2021年2月の実施事項

○地学基礎の教科書をつかった勉強会(第4回)と来年度の計画立案 (参加者8名)

日時: 2021年2月28日(日)13:30~15:45

場所: 琵琶湖博物館 実習室1

1. 地学基礎の教科書をつかった勉強会(第4回)

発表: 梅澤

梅澤の報告と北野さんの今年度の実行計画の立案を進めた。コロナ対策としては従来の網戸の使用による外気の活用に加え、終了後の机などの拭き掃除を実施した。

・報告のポイント

①滋賀の南部で見える付加体、地層、岩石、断層、②プレートの運動、③地質構造の形成、④大地形の形成等について、基礎的な話とインターネットで得られる最新の話をした。真摯な討議、アドバイス、指摘を受けた。ありがたい話であり、活用させて頂きたい。

2. 本年度の計画立案(担当 北野)

春季の予定は立案した。他の月についても引き続き検討・追加する。

■今後の活動予定

3月21日(日): 大津市大石東、鹿跳橋付近の河原の石や岩石調査

4月: 逢坂山付近の付加体の調査と山頂からの湖南、湖北の山の概要把握(日程未定)

6月: 織山付近の岩石調査(日程未定)

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾 滋史

【活動報告】

■1月30日(土) 参加者:5名 おでかけ撮影会 in 多賀町

予想外に雪が降る天候となりましたが、雪景色の多賀大社や胡宮神社での撮影をすることができました。さらに、大橋宇三郎コレクションでも撮影されていたSLパークでも同じアングルでの写真を撮影しました。



■2月18日(木) 参加者:4名 大橋コレクション整理作業

すべての写真チェックが終わり、ホームページで公開するための最終選別作業を行い、完了しました。これで10年以上に及んだ大橋コレクションの活用に向けた整理作業が一通り完了しました!!

■2月27日(土) 参加者:8名 博物館周辺の風景・自然撮影

博物館周辺で風景や生き物の撮影を行いました。人なつっこいジョウビタキや琵琶湖の湖岸では珍しい水鳥のアカハシバジロ、そして今年初めてのツバメ(越冬個体と思われる)なども観察できました。



■3月13日(土) 参加者:9名 総会

総会として、今年度の活動の振り返り、そして来年度の活動計画を立てました。来年度も大橋コレクションの撮影地を求めて同じアングルでの撮影を行うほか、県内各地、特に中山道や東海道など街道沿いの風景を撮影していくことになりました。

【活動予定】

■4月24日(土) おでかけ撮影会 in 木之本町 10:30 JR 木之本駅集合



(7) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 渡部 圭一

【活動報告】 活動はありませんでした。

【活動予定】 未定です。



(8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ代表アドレス: hashi-hakutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川 千代美

【活動報告】

■多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業

①日時:1月14日(木) 13:00~15:30

場所:琵琶湖博物館実習室1 参加者2名

②日時:1月17日(日) 13:00~15:30

場所:琵琶湖博物館実習室1 参加者3名

③日時:2月13日(土) 13:00~15:30

場所:琵琶湖博物館実習室1 参加者2名

④日時:2月19日(金) 13:30~15:30

場所:琵琶湖博物館実習室1 参加者2名

活動内容:多賀の発掘現場の土を顕微鏡で観察しながら小割りし、微小な化石を探す作業を行った。

■粒度表を作成するための検討会

日時:2月20日(土) 13:00~15:30

場所:琵琶湖博物館実習室1 参加者:9名

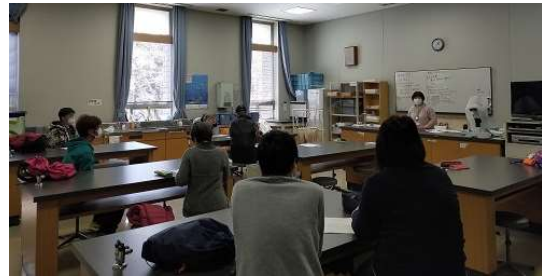
活動内容:地層の観察や柱状図の作成の際に粒度表を活用することで、より円滑に進められることから、粒度表を作成する。今回、粒度表を作成するための手順の確認や土の採集場所の検討を行った。

活動結果:前半は、参加者全員で粒度表を作成するための基本的な手順を確認した。現場から土を採集する時は、極粗粒砂、中粒砂、シルトなど各粒度を含めて採取するよう意識すること、ふるいの使用の前に砂を乾燥させておかなければいけないことなどを確認した。採集場所によって砂の色や形が若干異なる場合があるのではないかなど、話し合いで様々な意見も出た。粒度表の作成経験がある参加者もいたため、砂を固定させるためのボンドの粘度を薄めた方がよいなど、より使いやすい粒度表を作成するためのポイントも話し合うことが出来た。

後半は、採集場所について話し合った。琵琶湖岸沿いや野洲川など、話し合いでいくつかの候補地が挙がったが、最終的に野洲川に決定した。次回以降、実際に土の採集を行い、粒度表の作成を行う。粒度表の作成が初めての参加者が多いため、丁寧に工程を進めていきたい。



粒度表作成の手順を確認



採集場所などについて話し合い

■はしかけ登録講座

期間:3月7日～3月14日 今回のはしかけ登録講座は、オンラインでの開催となった。

■粒度表作成のための土の採集

日時:3月13日(土) 10:00～ 場所:滋賀県湖南市吉永・野洲川

活動内容:前日が雨だったため、中止した。

【活動予定】

■日時:4月11日(日)13:00～

場所:琵琶湖博物館

「(仮)ワニの眼で見た古琵琶湖層群と大阪層群」の勉強会

■日程未定

雨天のため順延した「粒度表作成のための土の採集」を4月以降に行う予定



(9) 湖(こ)をつなぐ会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ代表アドレス: hashi-ko-tunagu@lbawahaku.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

■3月7日(日) 参加者:2名

コロナウイルス感染拡大防止のため、博物館のアトリウムでの活動が制限される中で、今後どのように活動できるかを考えてきました。いろいろ話し合いを続けてきましたが、今年度末で解散することを決めました。

【活動予定】

・3月28日(日) 14:00から

湖をつなぐ会解散会

「びわこの旅」紙芝居ビデオ撮影



(10) ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 妹尾裕介・大槻達郎

各地でサクラが咲き始めましたね。生き物たちの動きも活発になってきました。今年度は残念ながら独自のイベントはまったくできませんでしたが、ディスカバリールームで年度末滑り込みで実施したイベント「森の宝物をさがそう！」に参加することができました。久しぶりのワークショップで最初少し緊張がありましたが、みんなの笑顔があふれる良いイベントになったと思います。世の中が早く落ち着いて、たくさんイベントができると良いですね。これからのはしかけ活動については、web ページ等で最新情報のチェックをお願いいたします。

【活動報告】

活動内容	実施日	タイトル	内容
はしかけ	3月20日(土) 11:30-、14:00-	森のたからものをさがそう!	ディスカバイベントに参加しました。みんな夢中になって、森でたからものを探しました。最後まで天気もってよかった。 参加者大人9名、子ども9名、はしかけ2名



おはなしを聞いて



気になるものを森でさがします



何がみつかるかなあ



みつけたよ



たからものをえらんで



キャプションを作り



完成

【活動予定】 現在調整中、詳しい内容はメールで問い合わせください。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に妹尾・大槻まで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましよう！

また、ザ! ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。ぜひご参加ください。



(11) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 45 名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山本 綾美

■ 1月16日(土) 里山体験教室 下見 参加者 15人

野外活動なら、コロナ対策を取りながら実施できるということで、冬の里山体験教室は開催することになり、そのための下準備として、開催1週間前に下見に行きました。里山の会では、最近新規会員さんが増えたので、焚火を最初から(やまで燃料を集めるところから)やったことがない、



というメンバーのため下見の時に練習をしました。着火するときを使うスギの葉や薪になる木を森から集めます。穴を掘って火をつけて、そしてちゃんと火を消して元の地面に戻すまで。自分でできると楽しいし、自信もつきますね。体験教室で、やる花炭も練習しました。「練習」とはいえ、みんなとっても楽しそうでした。(山本)



■ 1月24日(土) 里山体験教室 本番 参加者 3人

事前練習しましたが、本番は雨天により中止でした。非常に体が冷えるので、小さい子供が参加する里山体験教室は雨天中止です(TT)雪だったら開催したのに残念でした。スタッフ三人で、現地ですばらく待機して解散としました。

(山本)

■ 2月25日(木) スウェーデントーチ作り 参加者 6人

「スウェーデントーチを作って災害時の技術を身に着けよう！」

はしかけ里山の森で開催しました。スウェーデントーチを作り火のつけ方とファットウッドの説明、災害時のご飯作りをしてみました。今回は小さいトーチでしたが2重3重にすれば大きな火になります。



火をつけるときに使うファットウッド(松の木の軸)の話と、これを使えばライター・マッチから直接火をつけることができるので燃え方を確認してもらいました。

鍋の湯が沸騰したら袋に入れた米と水を30分煮る(熱に強い袋を使うこと)ご飯出来上がり、湯はまだ利用できるので捨てずにお汁を作ることもできるし、汁の材料が入った袋をご飯と一緒に煮てもよい。袋の口を切ってコップ・どんぶりにかぶせて食する、入れものが汚れていてもOK。または皿等を汚さないので洗わなくてもよくなります。

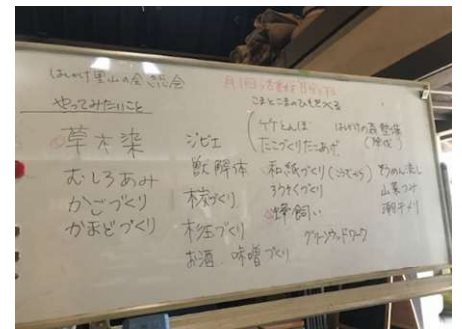
(災害時は水が大切) アウトドアにもベンリ!

次はもう少し太い木を使ったトーチをしてみましよう。(柳原)



■ 3月13日(土) 総会およびシイタケ植菌体験 参加者 21人

総会で久しぶりにメンバーが集まりました。寺尾さんの段取りと指導で毎年シイタケの植菌体験ができます。トントン菌駒打ちは子どもたちも楽しい仕事です。そのあとの総会では、来年度以降のやりたいことを出していきました!新規メンバーの斬新な希望や例年のイベントなど、とにかく楽しい一年になりそうな盛沢山計画が出来ました♪(山本)



【今後の活動予定】

■ 4月17日(土) 里山体験教室下見

■ 4月25日(日) 里山体験教室本番



(12) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

昨年は暖冬で、米原のセツブンソウがその名前の通り2月の節分の日に咲き始めました。今年は何度か雪が積もり寒い日が多かった気がしましたが、やはりそのセツブンソウは節分の日頃から咲き始めたそうです。セツブンソウはどうやって咲く時期を決めているのだろう、気温の積算?日照時間?最高気温でスイッチが入ってしまう?など疑問だらけです。

昔はあっちにもこっちにも(セツブンソウが)あった、いつの間にか無くなっていった、ミスミソウもここ(指さしで)は残っているけど…、など、地元の方のお話も聞きながら、今年は1人で歩きました。

【活動報告】

2月 日(日) 定例会休止日 季節や天候の関係で毎年2月は休止 参加者 0名

3月 7日(日) 「来年度の計画、博物館周辺の観察」 参加者 0名

新型コロナの流行の報道結果を見て、引き続き中止。

【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。外部で行う観察会は、年に数回、みなさんにも呼びかけを行う予定(しばらくは、密を避けるため、行いません)です。このニュースレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。
- 4月 4日(日) 博物館周り、樹幹トレイルの観察(新型コロナの流行次第によっては中止)
- 5月 未定 (新型コロナの流行次第によっては中止)

※4月以降の計画は、3月に集まれなかったため、メール等で相談して決めます。

この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください(ˆoˆ)/
当日、直接、実習室や現地へ来ていただいても結構です。



(13) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21名】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

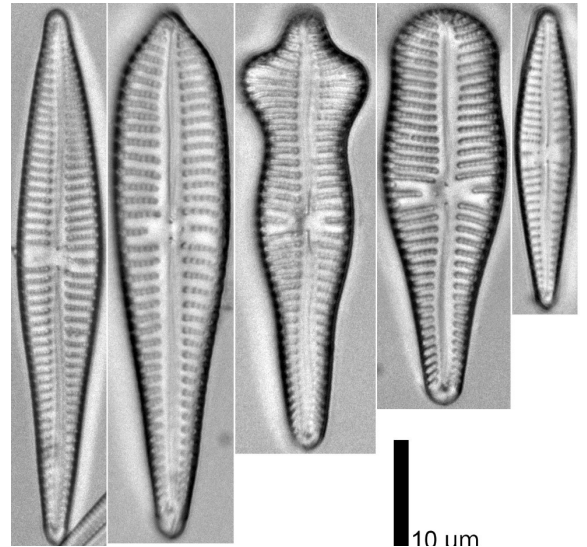
たんさいぼうの会第65回総会を、1月24日(日)の19時からオンラインで開催しました。参加者は10名でした。電子図鑑の進捗状況報告や、日本珪藻学会第40回研究集会(こちらもオンライン)の報告などが行われました。個人の活動報告の後は、そのままオンライン飲み会に突入です。今回は東京在住の会員(東大在学中)の久々の参加もあり、盛り上がりました。

日本陸水学会近畿支部会第32回研究発表会が、2月28日(日)にオンラインで開催され、根来健さんが「*Micrasterias hardyi*の低温・暗条件下における耐性」というタイトルで発表しました(ただし特別研究員として)。外来種の大型接合藻 *Micrasterias hardyi* が、琵琶湖北湖湖底のような低温・案条件下で何か月も生き延びることができ、光を当てて培養すると再び殖えはじめるという内容で、本種の琵琶湖における侵略的外来生物としての危険性を示唆しています。

3月7日(日)から行われたはしかけ登録講座(オンライン)で、たんさいぼうの会に新たに1名の会員が入会しました。大学の卒論で珪藻の研究を行い、それ以来約40年ぶりに珪藻の研究を再開するそうです。なお、はしかけ各グループの活動紹介動画を期間限定・対象者限定で公開したところ、たんさいぼうの会の再生回数が最も多かったと聞いています。

会員の新たな論文執筆が、3本並行で進んでいます。メダカ水槽に出現する珪藻の報告は、もう投稿間近まで来ています。藤ヶ鳴湿原の珪藻の論文は、種同定と写真プレートの整理が終わり、本文を執筆中です。瀬田公園の珪藻の論文も、必要な写真が概ね揃い、その同定も済んで、現在、出現種と文献の再整理をしているところです。

研究交流室の生物顕微鏡で、また十分な分解能が出せるようになりました。結局、NIKON ECRIPSE 80i の部品保管期限切れによって内部電源は復活できなかったのですが、ハロゲンランプによる外付け光源装置と、波長が短い LED による外付け光源装置の 2 つを確保し、目的に応じて容易に交換して使用できるようになりました。LED 光源は紫外線を多く含む紫色光(ピーク波長 385 nm)のものなので、高解像度が期待できます。しかし紫外線を含む紫色光を直接見ると目にたいへん悪いので、接眼レンズから覗く通常の顕微鏡観察はできず、撮影装置の画面を通じての観察のみになります。そこで当面の間、通常はハロゲンランプの光源装置を用い、こころ一番の写真を撮るときに、影の会長(←これを書いている人)の立会いの下でのみ使えるようにします。



曾根沼のクサビケイソウ。紫色 LED 光源を用いて撮影

【活動予定】

たんさいぼうの会第 66 回総会を、4 月 4 日(日)夜にオンラインで開催します。「たんさいぼうの会」以外のはしかけ会員の方でも、ご関心がある方は上記グループ代表アドレスまでご一報ください。

新型コロナウイルス感染症がまだ収束しないこともあり、集まらなくてもできる活動を、それぞれに進めていきます。メダカ水槽の珪藻については、この次のニューズレターが出る頃までには投稿したいと考えています。藤ヶ鳴湿原(岡山市)、瀬田公園湿地(大津市)の珪藻についても、年末に発行される珪藻学会誌 *Diatom* への掲載を目指して完成に近づけていきたいと考えています。他にも、古琵琶湖層群蒲生層の古環境の研究、古琵琶湖層群甲賀層の化石珪藻の研究、愛知県の鉍質土壌湿地群の珪藻植生研究、曾根沼・野田沼(彦根市)の珪藻植生研究などを進めています。



(14) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

本格的な春のぬくもりが感じられる季節になってきましたが、田んぼのエビ達は、土の上でしっかり乾燥して、水入れとともに孵化することを待ちわびていることと思います。新型コロナウイルス感染症の第 3 波も、徐々に沈静化しつつあるように思います。ワクチン接種が順調に進み、はしかけ活動が再開できることを期待したいと思います。

【活動報告】

エビ達とともに、グループ全体としての活動は休眠中です。2021 年度の活動を計画するために、2020 年度の活動を振り返り、総会の資料や年報の作成などの作業を、代表の山川が行いました。

【活動予定】

このニューズレターが発行される頃には既に終了していることとなりますが、

3月28日(日) 13:30から 琵琶湖博物館実習室1 において 総会

を開催します。2021 年度の活動予定は総会の場で議論することになります。決定した活動予定につきましては、会員の皆さまにメールで連絡いたしますので、ご確認ください。

(山川 栄樹)



(15) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

<「タンポポ調査・西日本2020」実施中・2021年5月まで延長>

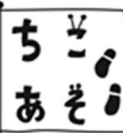
「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。5年に1度2年にわたって実施される広域調査ですが、新型コロナウイルス対策により、本調査実施年に多くの行事が中止になりました。そのため、事務局では調査を2021年まで延長して実施することを決め、2021年3月から5月31日まで調査を実施中です。引き続き、ご協力をお願いいたします。

【活動報告】

なし。

【活動予定】

広域調査に合わせたグループであることから、今後活動の整理を進めており、グループとしては一度解散することも検討中です。2019年の調査の際に参加表明していただいたメンバーには、別途メールで今後の活動について伺う予定です。



(16) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ代表アドレス: hashi-chikoaso@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大久保 実香・中村 久美子

【活動報告】

2月と3月の活動を報告します。

◆2月の活動 2/17(水)

午前の部: 子ども5名、保護者4名、午後の部: 子ども5名、保護者4名、はしかけメンバー3名

まだまだ寒さの残る2月でしたが、散歩に出かけて地面をよく見ると、そこにはフキノトウが芽を出していました！もう春は来ているよと言わんばかりです。子どもはもちろんですが、初めてフキノトウを取るお母さんもおられました。お料理上手のバンダナおじさんにフキ味噌の作り方を聞いて、お家で作ってみようともおられました。

また散歩に出かけると、腐葉土たっぷりでフカフカの土がありました。ポヨンポヨンと跳ねて遊んだ後、スコップでソロリソロリと掘ってみると、出てきました！大きなカブトムシの幼虫です！もう少し大きくなって蛹になって夏になると出てきます。「うわー大きい！」と驚くお母さん、「初めて見たー」「こんなんに大きいんや」「えーこの後どうなるの？」「触ってもいい？」みんな興味津々です。寒いですが、生き物たちが着実に冬を越しながら生きていることに気づく1日でした

◆3月の活動 3/17(水)

はしかけメンバー 5名

少人数、事前予約制、屋外での活動でしたが、コロナ対策として一般の方の参加を取りやめて、ちこあそメンバーでの活動としてました。

春に向けて、生活実験工房の畑で、バンダナおじさんのご協力を得て、ジャガイモの植え付け、これまで育てていたウスイエンドウの植え替え、購入したソラマメ、スナップエンドウ苗の植え付け、さらにハツカダイコンとウスイエンドウの種まきを行いました。また冬越しのコンニャクイモの植え付けも行いました。「大きくなーれ」「上手に育つかなあ」とみんなの気持ちを入れながらの作業でした。

また、メンバーのお子さんがちょうどちこあそ年齢(幼児期)でしたので、一緒に参加してもらい、子ども・子育て情報もおしゃべりしながら、いつものちこあそに近い状況も作れました。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。<http://blog.goo.ne.jp/eco-macha> をご覧ください。



フキノトウを探してみよう、見つかるかな？ フキノトウがこんなにとれたよ(2月)



みんなでジャガイモ種芋の植え付け(3月)

【今後の活動予定】

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
4月	4月21日(水) 午前の部 10:00-12:00 午後の部 12:00-14:00	ちこあそ4月	<ul style="list-style-type: none"> 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。 お申込みは、博物館ホームページイベントカレンダーから、滋賀県の予約サイトで行っています。 定員、各部5組
5月	5月19日(水) 午前の部 10:00-12:00 午後の部 12:00-14:00	ちこあそ5月	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため実施についてはその都度判断します。 ☆ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなどのやさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。

新しいはしかけメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(17) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚 泰介

【活動報告】

■ 2月、3月は活動を行いませんでした。

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(18) びわたん 【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-biwatan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 由良 嘉基・奥野 知之

【活動報告】

- 2月13日(土) 「ドキ土器おしゃれ模様を楽しもう！」中止
- 3月13日(土) 「お魚モビールを作ろう！」中止

今年度の『わくわく探検隊』は、コロナウイルス感染拡大防止のためすべて中止となってしまいました。楽しみにしていたメンバーの皆様、お客様には寂しい思いをさせていただきましたが、安全を最優先に考えた上での結果です。来年度、コロナが収束に向かえば、来年度のわくわく探検隊を再開することが考えられますが、従来通りの計画、方法での実施は難しいことも予想されます。まだまだ不安ばかりの日々が続きますが、活動を再開できる日がくることを楽しみにしております。

【活動報告】

■ 1月24日(日) 参加者: 3名、見学者1名

ネコの解剖、タヌキの皮なめし、を行いました。

この日でタヌキの皮なめしの作業も何とか最終段階までこぎつけることが出来、一応の完成を見る事が出来ました。ほぼ初めての自分だけの制作だったため、なかなか満足いく出来とはいきませんでしたので、この反省を次の機会に活かせるようにしたいです。

■ 2月6日(土) 参加者: 2名

クマの頭骨のクリーニング、鳥の骨のクリーニングを行いました。

■ 2月21日(日) 参加者: 3名

カラヒワ(鳥類)の仮剥製、ネコの解剖、鳥の骨の同定、鳥の骨のクリーニングを行いました。

白骨化していて、パッと見ただけでは種類がわからない鳥の死体が複数個あったので、資料を使ってそれぞれがなんという種なのかを調べる作業を行いました。鳥の死体の状態もあり、おそらくこれだろうとハッキリと言えそうなものや、ナニナニの仲間ぐらいまでしか言えないようなものなど様々で、骨と一緒に羽も残っている状態だったので、羽根の色や模様、形など細かな違いを頼りに資料と見比べて何とか結論を出すことができました。

状態としては、ほとんど骨になった状態なので乾燥して残っている組織をきれいにするだけで標本になってくれそうなので今後の活動できれいな標本にしていきたいと思います。



今回同定した、野外で拾った鳥の白骨化した死体

■ 2月27日(土) 参加者: 3名

カルガモの解剖、ネコの解剖、鳥の骨のクリーニングを行いました。

■ 3月7日(日) 参加者: 3名

クマの頭骨の組み立て、鳥の骨のクリーニングを行いました。

クマの頭骨の制作も今回から組み立てに進み、砕けてしまっている頭骨の欠けた部分に上手く合うように破片を固定していく作業を行いました。破片がとても細かくなってしまっていて、普段見ているパーツでも、その裏側や内側がどうなっているかはなかなか想像することが難しくその破片がどこのものか探すのもなかなか難しかったです。



組み立て作業中のクマの頭骨

■ 3月14日(日) 参加者: 1名

鳥の骨のクリーニングを行いました。

少しずつ暖かくなってきたので、だんだんと標本制作にむいている季節にむかっているの、効率よく制作できるように、今のうちに準備をしっかりとしていきたいです。昨年度と同じ時期には、なかなか例年通りの活動とはいかず、制作できた標本数も少なくなりましたので、今年度もまだまだ例年通りの活動とはいかないですが、出来るだけたくさんさんの標本が作れるようにと思っています。

【活動予定】

・3月27日の13:00~16:00に博物館での活動を予定しております。

・4月、5月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回2~3時間程度の活動を予定しております。



【活動報告】

■2月12日(水) 午前 参加者: 9名

活動内容: キカラスウリの根っこから天花粉を作ろう

キカラスウリの根っこから天花粉をつくる過程について学びました。
 事前に採取し、水に浸けておいたキカラスウリの根をたわしで洗い、皮をむいて
 少しの水と共にミキサーに入れ攪拌し、ドロドロになったものを布でろ過します。
 ➡器の底に沈殿した真っ白な液を更に数回ろ過したものを天日に干す。
 ➡同じ工程を何度か繰り返し、天日干しをすると水分が蒸発しさらさらの粉に
 なり出来が！
 キカラスウリの実も各自持ち帰り、チンキなどに利用することになりました。



皮をむいたキカラスウリの根

【感想】

- ・始めはキカラスウリの根っこから天花粉が本当にできるのかと思いましたが、作業行程がでんぷんを作り出す行程と一緒なので、作りやすかったと思います。
出来上がった天花粉は本当にサラサラして付けた後も乾燥することなくずっとサラサラでした！
今年の夏に使って試してみたいと思います。昔からの生活の知恵や工夫に感謝です。
- ・キカラスウリの根っこから、ほんとに天花粉作りができて感動しました、
その使い心地といったら！肌についたら、すべすべになってビックリしました。来年も作りたいです。
- ・根っこを粉碎してミキサーにかけてこして乾かしていくという作業は皆さんと色々やりくりしてたから達成感もありました。
余った根っこの蔓の活用を考えたけど、常時湿っているようでリースなどは無理のようでした。
昔の方は凄いなと驚くばかりでした。そして、このような昔からの手仕事をもっと知りたいと思いました。
- ・キカラスウリから真っ白い天花粉が・・・全部が初めての体験！
サラサラすべすべの感触は最高でした。絞った後の繊維質はお風呂で使いましたがめっちゃくちゃっとり～感動。
ちょっと忘れかけていたお肌の感触が戻ってきました
- ・乾燥中のきれいな白い天花粉を拝見することができました。白い粉の味は、ちょっぴり苦かったですね！
- ・今回の実験ではろ過する作業の繰り返しがあるので当日の天候がとても心配でしたが思ったよりも早く乾燥し、
予想外にも多くの量が取れ、使い心地も最高でもう一度体験したいとの声もありました。



包丁・ミキサーで粉碎



布巾で濾していく



上澄み液を捨て天日干し



熟したキカラスウリの実

■2月12日(水) 午後 参加者: 9名

活動内容: ススキで魔女のほうき作り

穂が落ちたあとのススキを使って、かわいいクラフト作りに挑戦しました。
 ススキは昨年3月ごろに取ってきたものだそうで、穂をきれいに落とし、切り揃えたものを
 メンバーさんが準備してくださいました。
 そこに自分の好きな布をえらんで、ほうきの形をつくり、メタセコイヤやどんぐりの帽子
 など、好きな木の実を飾り、最後に魔女のプリントした紙をはり完成。道端にあるススキから、
 とても可愛くて実用的な魔女のほうきができたのは驚きでした。



ススキでかわいいほうきができる。

【感想】

パソコン周りの掃除に使ってみたいです。
自分でもまたススキを取りこいてほうきを作りたいと思いました。

■3月20日(日) 参加者: 9名

活動内容: 木のスプーン作り

前年度も実施して好評だった、木のスプーン作り。今年初めて挑戦するメンバーもいれば、2回目なのでスプーン以外のものを作っていたい人もいます。今年も生活実験工房の中川さんにご指導いただきながら、自分の好きな作品を作りました。木材もいろいろなものを用意して頂き、選んだ木材によって風合いが違うのも素敵でした。
バターナイフ、豆皿、スプーン、カッティングボードなど、とても素敵な作品が沢山できました。



中川さんから教わっているところ

【感想】

- ・完成したバターナイフを家に持ち帰ったら、家族がすごくいいあとほめてくれました。私はキハダからバターナイフを作りました。中川さんが作っていたバターナイフに憧れていたもので、今回自分で作ることができてうれしかったです。
- ・黙々と制作する過程にとっても癒されました。素敵な作品ができてよかったです。私はカツラの木で、バターナイフを作りましたが、きれいなフォルムになり満足です。ただ持ち手を補足してしまったので、力を入れて折らないように気をつけなければなりません。中川さんに今回も手取り足取りお世話になり感謝です。来年はもう少し自分でできるように頑張りたいです。
- ・木のスプーンはずっと自分で作ってみたいだったので、こういう機会があって本当に嬉しかったです。自分で作ると沢山の工程を経ていることを実感しました。スプーンに限らず、色々なものを大切に使わないとだめですね。
- ・スプーンとカッティングボードまで作れて最高！来年はバターナイフを作りたいです。
- ・木のカタラーリ作りとても楽しかったです。使う度にお手入れして、より味わいが出てくるのが楽しみです。自宅にあるお店で買った木の食器と比べてみたら、材の種類によって風合いが違うのがよくわかりました。メンテナンスに使うのは、胡桃か荳蔻胡麻オイルが良いそうです。サラダ油や胡麻油は乾かないので避けたほうがよさそうです。



黙々と作業中。木の香りにとても癒される。



素敵な作品が沢山出来上がった。

【活動予定】

- ・3月28日(日) 10:00~12:00 年度末総会
- ・「こんにゃく芋からこんにゃくを作ろう！」プロジェクト始動しました。
各自こんにゃく芋を持ち帰り、4年かけて大きく育てます。こんにゃく芋からこんにゃくが作れるかな!?



(21) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋 克郎

【活動報告】

■集まっての活動はできませんでしたが、虫架け通信を発行し、会員同士の交流をはかりました。通信は月に1回程度発行してきて、30号に達しました。これからも続けて行けたらと思います。



【活動予定】

・新型コロナウイルスの影響で予定が不透明ですが、可能であれば1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行いたいと考えています。

山地などで昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の分布調査をしています。

※都合により、新規会員の募集は当面見合わせております。(文責: 梶田)



(22) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ代表アドレス: hashi-morihito@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

■新型コロナウイルスへの対応として1月、2月及び3月13日の活動は休止した。この間は個人的に観察したことなどをメールやブログで共有することにした。



マンサク 大津市 2/25/2021



紅梅 大津市 2/25/2021



【今後の予定】

新型コロナウイルス感染症の状況が良くなれば下記の日程で実施したい。

- 3月27日(土)10:00~12:00 内容:琵琶湖博物館の周辺での観察会
- 4月10日(土) 内容:外部観察会(検討中)
- 4月24日(土) 内容:外部観察会(検討中)

【入会希望などの連絡】

いつでも歓迎です。グループ代表アドレス:hashi-morihito@biwahaku.jp にメールで連絡ください。

行替
遣天

(23) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 一名】

グループ代表アドレス: hashi-ryozanpaku@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中井 克樹

【活動報告】

年度末を迎えたこの2ヶ月の間、担当者が関わった活動実績はありません。

【活動予定】

科学部のメンバーをはじめとする高校生がグループの主な構成員であり、最終学年のメンバーが卒業し、新年度には新しいメンバーを迎える時期を迎えます。新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために配慮をしながら、それぞれの学校での活動を進めている状況です。博物館としては、学年替わりの長期休みに入り、各学校での対応に従いながら、質問や調べものがあればメールなどで気軽に博物館を使ってくれればと考えており、新年度を迎えてから、オンライン集会の開催を呼び掛けているところです。

【活動報告】

■2月13日(土)13:30~15:00 水温センサーのテスト

場所: 琵琶湖博物館 実習室 2

参加者: 2名 (はしかけ1名 学芸員1名)

コロナ禍の影響か参加者は相変わらず少なく、前回と同じメンバーになりました。前回に見つけたと報告のあった温度センサーを実際に使えるように組み上げてみたということなので、バケツに水を入れてお湯で温度を変化させ、実際に計測してみました。その結果、各センサーごとに較正して一定値を加除することで、0.1°Cレベルの正確な水温が求まることが判りました。結果はメンバーのメーリングリストでも報告しました。



■3月13日(土)13:30~15:00 ギャラリー展示のアイデアについての議論

場所: 琵琶湖博物館 実習室 1

参加者: 2名 (はしかけ1名 学芸員1名)

相変わらず同じ参加者でしたが、メーリングリストでも他のメンバーに議論を投げかけた、来年度後半に予定されているギャラリー展について議論しました。「科学館」で扱うような「科学原理」について、科学館では「原理そのもの」に目を向けることに注力していますが、琵琶湖博物館ではそれを地域の具体的な現象(例えば湖流)にどう関わっているかに目を向ける必要があります。そのアイデアの種になるような「思いつき」を色々語ってみました。

グループ以外の皆さんからも、いろいろとアイデアをいただければ助かります。よろしくお願いします。

【活動予定】

・当面は原則として毎月第二土曜の午後に会合を持つことにします。

【活動報告】

■1月14日(木) 参加者: 5名

①活動場所: 近江八幡エリア

②調査目的: 近江八幡エリアでの湧水調査及び勧請吊り調査

A. 近江八幡エリアの湧水調査

A-1 小田町の水田地帯に噴出する湧水(近江八幡市小田町)

県道2号線 朝鮮人街道を野洲から八幡市内方向に走り、日野川渡ってすぐの十王町信号を湖岸方面に左折、集落が途切れたあたりの水田の中にある直径2mほどの井戸から自然に湧出している水。当日の外気温5°Cにもかかわらず湧水温度は19°Cもあった。現在は農業用などには利用させていない模様。周辺は圃場事業も行き届いており、揚水利用での稲作地帯であった。

A-2 湧上の郷の湧水(近江八幡市野田町)

県道26号線 八幡市内からR8 武佐交差点に向かい新幹線と交差する手前の野田信号脇に整備された「湧上の郷湧水」がある。付近は整備されて公園になっており、平成7年、郷土賞受賞記念石碑も建っている。金網で囲まれた水面は道路から石垣を3m程度降りたところに約10m四方の池で整備されている。石垣に現在の水位から50cm~100cm程の高さに上昇した水位痕が数段白く残っていて、多水期にはそのあたりまで水位が上がっている様子が伺えた。また、すぐ横に八幡神社の小さな祠があり、手水鉢までは、同水系をポンプUPして利用している模様。



小田町水田地帯噴出水



「湧上の郷」の湧水-1



八幡神社の手水

B 近江八幡エリアの勧請吊り調査

B-1 奥石神社参道の勧請吊り再訪問(近江八幡市安土町西老蘇)

昨年にも訪問済みであるが、今年新春の状態を確認するための訪問である。昨年のもより直径が少し大きな「とりくらず」が左右の木の幹より渡された縄の中央に吊るされていた。枝垂れは12本。立派な勧請吊り。新春の想いを強く感じた。

B-2 鎌若宮神社の勧請吊り(近江八幡市安土町西美老蘇)

旧中山道沿い奥石神社から武佐方面に800m程の所。五穀豊穡を願う新春行事「魔蛇羅講 まじゃらこ」が千年前から続いている。勧請吊りの中央とりくらずの中に吊るされた木札に地区の子供たちが石を投げ当てる行事で見事割った子供は1年間健やかに過ごせると言い伝えられる。今年もTVニュースで放映された。吊るされている左右の大木の根元に数本の紙垂が飾られ、何かの謂れに繋がっているようでもある。4月4~5日の春祭りでは勧請縄を巻き付けた松明が奉納されるとのことである。

B-3 牟佐神社の勧請吊り(近江八幡市武佐)

旧中山道沿い奥石神社、鎌若神社、更に1000m程の所にあるのが牟佐神社。境内の大木に勧請吊りがある。



■奥石神社の勧請吊り



■鎌若宮神社の勧請吊り



■牟佐神社の勧請吊り

■ 2月4日(木) 参加者: 6名

①活動場所:彦根・米原エリア

②調査目的:以前の湧水調査で湧水量豊富であった3箇所の再調査と近隣の湧水地点再調査

A-1 甘呂神社の手水の再訪問(彦根市甘呂町)

2018.5 に一度訪問しているが前年の台風による倒木被害で復旧工事中であった事もあり再訪した。甘呂神社は山王権現 大山昨命と白山権現 伊邪那美命を合祀されており、本殿の中に御社が左右二社祀られている。神輿蔵に神輿4基、黒田節の舞に使用される「十字やり(甘呂住人 天九郎俊長の銘が残っている)」も伝わっている。手水後部の井戸から湧き続ける湧水は犬上川の伏流水と考えられ、鯉が泳ぐ池に流れ込んでいる。

A-2 十王村の水の再訪問(彦根市西今町)

西今町南交差点角に湧出しており、古くから湖東三名水(十王村の水 清水鼻の水 醒ヶ井湧水)のひとつとして有名である。犬上川の伏流水で一時よりも水量が落ちたと言われている。妊婦が飲むと母乳が良く出るとの伝説があり、池の中央のお堂に母乳地藏尊が祀られ信仰されている。整備も行き届いている。

A-3 大清水泉神社の湧水の再訪問(米原市大清水)

小雪舞い散る中の再訪問となったが、前回通りの湧水状況であった。詳細は省略。

A-4 居醒の清水の再訪問(米原市醒ヶ井)

居醒の清水は地蔵川の源流を賄う水量を現在でも有していた。前回訪問時と同様、静かな川筋は、魅力大。日本の原風景である。詳細は省略。



■甘呂神社の手水



■十王村の水



■大清水泉神社の湧水



■居醒の清水

■ 2月10日(水) 参加者: 6名

①活動場所:守山・野洲エリア

②調査目的:川と暮らしの関係性に観点をおき、水に対する古人の想いを探りたく、県下の暴れ川である野洲川に焦点をあて、旧北流域、旧南流域における「水と暮らし」の中での神社、祀られている神様、勧請吊りの意味づけ解明のための調査を行った。

A-1 旧北流域および南流域の河川位置の把握。

A-2 現存する神社の位置の把握とA-1の関連性調査。

A-3 各神社の由来、祀られている神様、勧請吊りの実態の調査。

③今回の調査箇所

- ・八幡神社(守山市小山) ・天満神社(守山市小浜町) ・大水口神社(守山市幸津川町) ・狩上神社(野洲市)
- ・千原神社(野洲市井口) ・矢放神社(野洲市井口)の6社

④調査結果

野洲川の旧北流域、旧南流域における往時の洪水被害の伝承状況に深くかかわっている神社の存在している場所(位置) 勧請吊りのもつ意味が、少しずつ理解できてくるような気がする。詳細は後日、まとめる予定である。

⑤今後の対応として

野洲川の旧北流域、南流域を含め、この一帯は神社の数が尋常になく多い理由は?も含め、謎多き点があり、この一帯の神社をより多く調査し、少しでも何らの想いを展開してみたい。

【活動予定】

- ・3月12日(金) 旧野洲川の北流・南流域に接する神社を調査
- ・3月25日(木) 午後:琵琶湖博物館にて打合せ
- ・4月1日(木) 計画中

(本稿の執筆者:小篠)



(26) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 19名】

グループ代表アドレス: hashi-kaihin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■令和3年2月11日(祝) 9時30分～11時20分 天候:晴れ 気温:11℃
参加者:6名(阿部・小西・清田・百木・津田・上田)

観察状況

- *今年初めての作業日。暖かく風もない。琵琶湖の水位は高く波は穏やか。対岸の比良山系は霞がかかっている。
- *保護区の中の松が1本枯れ始め、松ぼっくりが、たくさん落ちている。
- *第2浜は水位が高いため、砂浜がなくなった所や狭くなっている。ゴミが打ち上げられ？チガヤが生い茂っている。
- *今回から上田さんが参加された。



活動内容

1. ミーティング、 2. 保護区内の草取り(主としてチガヤ)、 3. 第2浜の状況観察

海浜植物

- *ハマゴウ : 枝も枯れ、種が落ちて砂浜が広く感じる。
- *ハマエンドウ : 松の木の下は風や霜に守られて葉の緑が目立つ。また、第2浜で枯れたチガヤの下で確認された。全体的に葉も枯れている。
- *ハマヒルガオ : 見当たらない。



ハマエンドウ



第2浜のハマエンドウ



ハマゴウ

■令和3年2月19日(金) 9時30分～11時40分 天候:曇り 気温:5℃
参加者:7名(阿部・上田・小西・清田・松村・百木・津田)

観察状況

- *朝、雪の積もる中での作業は初めて。手足が冷たい。しかし、終盤には気温も上がり暖かく感じた作業日。
- *波は穏やか。対岸の比良山系は積雪できれい。
- *コマツヨイグサやカワラヨモギ等が新葉を出しかけた。
- *保護区外周ロープが2か所切れ(2月12日確認)4か所となった。

活動内容

1. ミーティング、 2. 保護区内の道路側通路のチガヤを掘り起こし除根、
3. 浜のチガヤ、コマツヨイグサ等の除去

海浜植物

- *ハマゴウ : 種も落ちて枯れた枝だけのものが大半でもろくて折れやすい。
- *ハマエンドウ : 全体的に葉も枯れている。松の木の下は少し緑の葉がついているものもある。
- *ハマヒルガオ : 地下茎が波に洗われてむき出しになっている。



今日の琵琶湖



ハマエンドウ



ハマゴウ

■令和3年3月4日(木) 9時30分～11時40分 天候:晴れ・曇り 気温:12℃
参加者:6名(阿部・上田・小西・清田・百木・津田)



今日の琵琶湖

観察状況

- * 春の到来を感じさせる暖かな日。静かな波の音と鳶の鳴き声を聞きながらの作業日。暖かいが上着は手放せない。
- * 波は穏やか。対岸の比良山系は霞んでいる。
- * 浜は前日の風で砂が舞い上がり、枯れたハマゴウにかぶさっている。
- * コマツヨイグサやカワラヨモギ等の新葉が大きくなっている。
- * ロープの切断部分が結ばれていた。
- * 保育園児が遊びに来ていた。

活動内容

1. ミーティング、
2. 保護区内の雑草の除去(チガヤ、コマツヨイグサ等)、
3. 浜のチガヤ、コマツヨイグサ等の除去

海浜植物観察状況

- * ハマゴウ : 枯れた枝だけが浜に広がっている。種は見当たらない。
- * ハマエンドウ : 全体的に葉は大部分が枯れた。新葉があちこちに広がり始めた。



新葉を出したハマエンドウ



すっかり枯れているハマゴウ



3. 生活実験工房からのお知らせ

春の訪れとともに、田んぼ体験行事が始まります。稲作作り体験では、5月～10月までの活動日が決まりましたので、お知らせします。時間を見つけて、体験活動へのご参加をよろしくお願いいたします。

今月の写真は生活実験工房の裏で里山の会さんが育てている椎茸と、表の畑でちこあそさんが育てているスナップエンドウです(竹のネームプレートが可愛い)。暖かくなって工房の周りも賑やかになってきました！



里山の会さんが育てている椎茸

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～) 場所：生活実験工房
田植え、稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

- 5月 9日(日) 田植え
- 6月 6日(日) 豊かな生きものを育む水田講座(初級)
- 7月 25日(日) 昆虫採集
- 9月 12日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)
- 10月 3日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)

その他、今年は金尾学芸員企画のオンライン観察会も実施予定です！

5月 22日(日) 生活実験工房 田んぼオンライン観察会 13:00～14:00

担当:交流係



ちこあそさんが育てている豆

4. その他の事項

(1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス(各グループの報告欄に掲載)にご連絡ください。

(2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。